

避難所における看護教員の災害ボランティア協力の在り方

キーワード：避難所、看護教員、災害ボランティア、役割

○本間昭子、田辺生子、小山聡子
新潟青陵大学看護福祉心理学部看護学科

I. 目的

東日本大震災によりA県内に設置された避難所で、ボランティア活動に参加したA大学看護教員の活動経過と支援内容から、避難所における看護教員の災害ボランティア協力の在り方について検証する。

II. 方法

1. 学内 LAN を用いた看護教員の派遣システムの運用結果から、利便性と問題点を明らかにする。
2. 参加者が記入した自由記載の活動報告をデータとし、災害ボランティアで行った活動内容を分類し、看護教員の果たした役割と改善が求められる内容を抽出する。
3. 倫理的配慮：研究目的と方法、学会に公表するにあたり個人が特定されないこと、研究参加は任意であることを文書で説明し、承諾書を得た方のデータを用いた。

III. 結果

1. 派遣の実態とシステム運用について

2011年3月20日～4月3日、A市2か所と近郊市町村1か所に、延べ33人（日中25人、夜間8人）を派遣した。各避難所の入所者は約200～500人で、日々入退所があった。

派遣ルートは学内 LAN を利用して募集し、教職員が共通利用できるフォルダに登録する方法をとった。A 県看護系災害協議会（以下協議会）委員が調整し、派遣人員を確保できた。また、協議会会員校間で人員確保に支障が出た場合、欠員補充や日程変更の調整に使われた。

2. 主な災害支援の内容

活動は地区担当保健師1名、大学看護教員ボランティアが2～4人で行い、毎日メンバーは交代した。

活動報告の内容を分類し、最も多かったのは【健康問題への対応】であった。＜体調不良者への対応＞は高血圧や発熱・下痢・嘔吐が多く、意識障害や下痢・嘔吐で救急車要請の事例もあった。＜保健指導＞は感染予防やエコノミー症候群の予防であった。さらに、健康相談コーナーに来ない人の中に健康問題を抱える人がおり、＜要観察者のリストアップと継続的モニタリング＞を行い、主に高血圧や糖尿病、精神障害者、腰痛の人がリストアップされた。

2つ目の役割は【精神面への援助】として、＜不安や悩みの聞き手＞があり、悩みや不安等を健康相談コーナーに来て話す人と、巡回時に話す人がいたので、＜定期的な巡回相談と声かけ＞を行った。肩こりや腰痛に＜マッサージによる癒し＞を提供し、同時に思いを聞く役割をしていた。

3つ目は【日常生活の支援】として、＜清拭や更衣＞、＜

排泄介助＞と、徘徊する老人や夜泣きの乳幼児を預かるなどの＜介護や育児の代行＞をしていた。

4つ目に【生活環境への支援】として、＜室温・湿度・換気の調整＞や＜不足物品のリストアップ＞があった。

3. 活動に支障が生じた内容

体育館は広く、所在把握が困難で、前述の＜要観察者のリストアップと継続的モニタリング＞の困難さが報告されていた。入所者マップ作成を試みたが、入退出が多く、把握が困難だった。そこで要支援者の個票に居場所を記入し、引き継ぎで一緒に申し送る方法や、ホワイトボードにリストアップして居場所も申し送る方法が取られ、定着した。

また、入所者のストレスが高いことを感じ、＜精神面の援助を行うマンパワーの不足＞と＜専門家による介入の必要性＞が報告されていた。このことを受け、1施設で1世帯30分程度の時間をかけ、聞き取りによるニーズ調査を全世帯にし、協議会が連携して22人の調査員を派遣した。長期化に対応して、家族単位の個別ニーズを把握できた。

IV. 考察

1. 派遣システムの運用と課題

学内 LAN の存在の周知が震災前に行われ、大学の春休み中ということもあり調整はスムーズに行われた。学内 LAN を使用できない場合の方法の検討と、平時に災害発生した場合の公務とボランティア参加との兼ね合いについて、教職員間の共通理解が必要である。

2. 看護教員の避難所における協力の在り方

協議会は、避難所における活動を予測していなかったが、看護教員もその役割を担うことができた。基本的には、日本看護協会が各支部で災害支援ナースの登録と派遣の準備を整えており、初動時の活躍が期待されている。しかし、今回のような大規模災害に伴う避難所支援に多数の人員が必要な場合、看護教員も避難所での活動を担える準備が必要と思われる。被災者特有の健康問題やこころのケアに対応するために、定期的な研修や災害看護の動向に目を向けていくことが、求められていると考える。

また、急性期から中長期の被災者のニーズ調査への協力は、協議会に期待される役割であることも確認できた。

V. 結論

災害ボランティア要員確保と調整に、派遣要員と後方支援する教職員の職務分担と学内 LAN を含めた情報ルートの整備が必要である。また、看護教員が避難所で期待される役割を担うには、災害看護の研修が必要である。